介護の仕事の魅力を伝えたい！

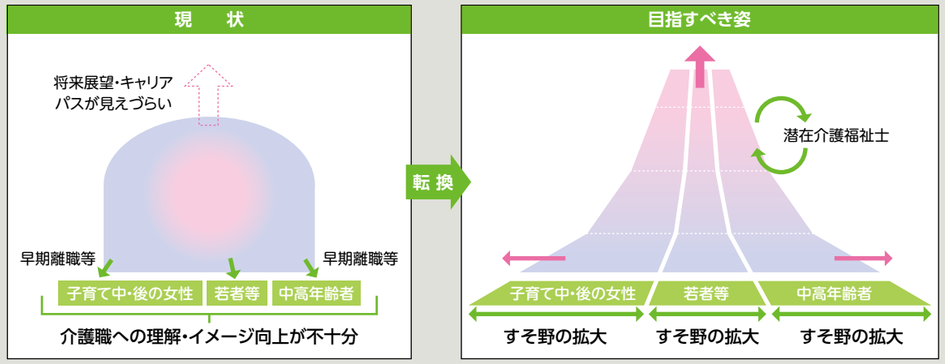
日本では、2025年に３人に１人が65歳以上の高齢者になるといわれています。今後さらに、高齢化の進展に伴って、介護サービスを必要とする高齢者が増えることが予想され、介護職の人材不足により拍車がかかることが心配されます。

介護人材の不足の大きな要因は、介護の仕事に対するイメージ。「きつい」「つらい」「大変そう」だと思う方も少なくありません。しかし、介護の現場にいくと、仕事に誇りをもって生き生きと働く職員の皆さんの姿があります。

今回は、介護の仕事の魅力について、現場で働く方の声を紹介します。

問い合わせ　長寿福祉課☎552-6928

2025年に向けた介護人材・介護業界の構造転換（イメージ）



量的確保	A　参入促進	①「すそ野を拡げる」	人材のすそ野の拡大を進め多様な人材の参入促進を図る	D 役割分担と連携
量的確保	B　労働環境・処遇の改善	②「長く続ける」	いったん介護の仕事についた者の定着促進を図る	
質的確保	C　資質の向上	③「道を作る」	意欲や能力に応じたキャリアパスを構築する	
質的確保	C　資質の向上	④「山を高くする」	専門性の明確化・高度化で、継続的な質の向上を促す	
質的確保	C　資質の向上	⑤「役割を分ける」	限られた人材を有効活用するため機能分化を進める	

ますます高まる介護の需要

団塊の世代が後期高齢者となる２０２５年、全国で22万人、兵庫県内で約1万2千人の介護職員が不足するとされています。さらに、県内では２０４０年に4万5千人に達することが分かりました。

丹波篠山市においても、令和5年8月に市内の介護サービス事業所を対象にアンケート調査を行いました。調査の結果、50事業所のうち31事業所において、「介護人材が不足または不足気味である」と回答され、その不足する人数の合計は72人となっています。現在、介護サービスを提供する上で規定されている人員を下回っている事業所はありません。しかし、今後さらに少子高齢化が進み、介護サービスを必要とする方が増加すると、介護人材の不足はさらに大きな課題となっていきます。

多くの職種が存在する介護職

介護の職場では、介護福祉士という国家資格がある方や、国が認めた介護職員初任者研修を修了した方、資格はないが介護の仕事に興味がある方など、さまざまな方が働いています。

介護の職場には、直接に介護にあたる介護職員だけでなく、他にもたくさんの職種の方が働かれています。例えば、調理員や送迎運転手、事務員、清掃員、相談員、介護支援専門員などがあり、この人たちがチームとなって、高齢者や障がいのある方の暮らしを支えています。

また、丹波篠山市では、地域でのお互いさま活動として、介護に関心のある方が見守り支援サポーターや傾聴ボランティアなどのボランティア活動を通して、掃除や買い物などの生活支援や話し相手として活動されています。ほかにも、介護施設などに出向き、施設の清掃や利用者の話し相手、囲碁や将棋の相手を行うボランティア活動もあります。

さらに、兵庫県では、介護の周辺業務（配膳、掃除、洗濯、レクリエーションなど）に従事する「ひょうごケア・アシスタント制度」を設けています。この制度は自分の生活にあった時間（例えば週3日、1日3時間）で、介護の現場を体験することができます。そして、この仕事を通じて地域に貢献できるだけでなく、自分の生きがいづくりや健康づくりなどにつなげることができます。

介護現場で働こう！

これまでの介護の現場は、介護の専門職などで支えてきていましたが、２０４０年に向け、これからは、富士山型（図1）のように、介護に関心のある方にも参加してもらえるように「すそ野を広げる」必要があります。

さらに、介護の魅力を若い世代の方から中高年者までの多くの方に知っていただき、介護や福祉の仕事をめざす方が増えるような広報活動や、介護現場への復帰を考えておられる潜在介護職の方が復帰しやすく、長く働き続けられる職場環境づくりが必要です。

施設介護

介護は笑顔をつくる仕事

介護老人福祉施設での仕事は、食事や排せつ、お風呂の介助が主な仕事になりますが、やまゆりの里では少し違います。日常的な生活部分での介助に加え、一緒に畑に行ったり、料理を作ったりと、利用者が家にいたときと変わらないような生活をしています。また、外出の機会を増やしたり、日常的にイベント（居酒屋、お風呂イベント、バーベキューなど）を開催したりすることで、利用者の笑顔があふれる取り組みも進めています。そのため、毎日いろいろなところで利用者の笑い声が聞こえ、まるで家にいるようなあたたかい雰囲気があります。

私にとって介護の仕事は、大変なこともありますが、楽しいという気持ちや、仕事にやりがいを感じることのほうがとても強いです。お年寄りが好きとか、誰かのために何かしてあげたいという気持ちがあれば介護の仕事は続けられると思います。ぜひ、やまゆりの里を見に来てほしいですね。感じていただけるものがたくさんあると思います。

介護老人福祉施設 やまゆりの里
塚本花夏（つかもとはなな）さん

介護の現場で活躍される方にインタビュー

現場で働く方の声を紹介します

ボランティアポイント(※1)活動者

私たちは、ボランティアポイント制度が始まった平成25年から登録し、この活動に取り組んでいます。入所者の方に楽しいひとときを過ごしてもらおうと、介護施設を訪問し、昔懐かしい歌や手品、腹話術、南京玉すだれなどを披露しています。現在、感染症対策で、施設内に立ち入るのは難しいところもありますが、コロナ禍前には、年間100回以上訪問することもありました。直接、人とふれあい、心の交流ができるこの活動に生きがいを感じていますし、地域に役立つ活動ができ、とても誇りに感じています。

小山迪夫さん(右)、小山玲子さん

丹波篠山市見守り支援サポーター

これまで、周りの方に助けられ、どこかでその恩返しができればと思っていました。そこで、私のできる範囲で支援ができればと思い、養成講座を受講し見守り支援サポーターに登録しました。現在、３人の方の日常生活を保つために、買い物や掃除、片付けなどの家事手伝いをしています。毎週行く方もあれば、月に１回、２週間に１回の方もありますが、自分の空いた時間に支援ができ、負担にならずに活動できています。皆さんも、１時間でも空いた時間があれば、誰かのために時間を使っていただきたいと思います。

小野田弘子さん

介護の世界へ踏み出そう

介護の仕事は、どうしても過去に言われていた「３K」(きつい・汚い・危険)というネガティブなイメージが強く、未経験者や若い世代の方が、この仕事に就くことに不安を抱かれることもあるのではないかと思います。しかし、今回お話しをお聞きし、改めて介護や福祉の仕事は、魅力ややりがいのある仕事であると思いました。取材させていただいた皆さんは、「私たちの仕事は、利用者のいつもの暮らしを支える仕事です」と自信を持って話されていました。また、「利用者から多くのことを学び、自分の人生も豊かになる仕事です」とも言われています。

介護の現場にも、力や経験だけに頼らない、介護を助けるロボットや機器、電子化が進んできています。しかし、心と心の通い合いや笑顔・表情などのコミュニケーションは、やはり人でないとできません。介護や福祉の仕事は、介護が必要な方の暮らしを支えるだけでなく、介護が必要な方の家族の暮らしを支える役割も担っていると思います。しかし、人の暮らしは介護サービスだけではまかなうことはできません。例えば、話し相手やあいさつ、電球交換やさりげない見守りなどは、地域の支え合いが大切となります。「介護の仕事」と聞くと、資格のある専門の方がすることと思いがちですが、「見守り支援サポーター」や「介護ボランティア」などのように資格がなくても、自分のできる範囲や時間を使って活動することもできます。

これから、介護や福祉の仕事はさらに重要な仕事となります。介護や福祉の仕事を理解していただき、若い世代の皆さんに「やりがいのある仕事」として選択していただきたいと思います。資格がある方には、自分に合った職場環境があると思いますので、ぜひご相談ください。また、資格のない皆さんにもできることはたくさんあります。介護を我がことと考えていただき、お互いさま活動として、専門職の皆さんと力を合わせ、丹波篠山市に住む誰もが笑顔で暮らしていけるよう、一歩踏み出してみませんか。

丹波篠山市役所長寿福祉課長
松本ゆかり

(※１)介護保険施設などでボランティア活動に参加するとポイントが貯まり、貯まったポイントに応じて、ポイントを換金できる、市社会福祉協議会の取り組み

通所介護［デイサービス］

デイサービスとは、要介護者の方の食事や入浴、機能訓練、レクリエーションなどを提供する日帰りの介護サービスです。デイサービスには「夜勤がない」「日曜日が休み」など、他の施設にはない特徴があります。そのため、自分の時間が確保でき、ワークライフバランスの整った働き方ができると思います。また、要介護度が低い方も多く、難しい介護技術が不要な場面も多くあり、介護に興味がある方やセカンドキャリアの方にも、入りやすい環境であると思います。地域の方々に「会いに来たで」と元気な笑顔を見せていただけることで、自分たちにも元気をもらえるのがデイザービスです。

指定通所介護事業所　篠山ケアセンター施設長　細見真一さん

訪問介護［ホームヘルパー］

自宅で暮らす要介護者の方や障がいのある方としっかりコミュニケーションをとり、生活に必要な支援をすることが、私たちヘルパーの仕事です。ヘルパーは家政婦ではありません。利用者のできること、できないことを見極め、自立の手助けをし、生活を支えるという大きな役割を担っています。ヘルパーの仕事は、施設で行うのではなく、利用者の自宅を訪問して支援を行うため、躊躇する方もおられますが、まずは体験してほしいと思います。利用者の懐に入り、コミュニケーションをとり、信頼を築くことで、私たちヘルパーも成長できる、やりがいのある仕事です。

ほっと介護・さかい　村上輝子さん(右)、小森昌美さん

介護支援［ケアマネジャー］専門員

私たちは、介護が必要になった方が自立した生活を送れるように介護サービス計画を作成し、その方の目標の実現に向けて医師や看護師、ホームヘルパー、サービス提供事業者などの皆さんと連携し、支援するためのチームづくりを行っています。利用者の皆さんのしたいことをかなえるために、最初に相談を受けるのが私たちケアマネジャーです。ケアマネジャーは、直接介護をするのではない相談援助職です。時には、利用者の思いどおりにならないこともありますが、利用者の望む暮らしができ、笑顔や感謝の言葉をいただいたときは、とてもうれしくて、やりがいを感じる仕事です。

特別養護老人ホーム和寿園居宅介護支援事業所
岡本ひろみさん(中央)、岩田京子さん(左)、北川康人さん

活動最前線 Event Frontline VOL.1

丹波篠山で新たなビジネスを創出

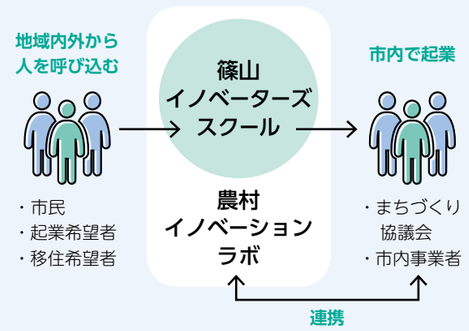
JR篠山口駅構内にある神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボで開催されている、篠山イノベーターズスクール。ここでは、丹波篠山市でビジネスを始めたい方や移住したい方を呼び込み、知識、ノウハウ、ネットワークの提供を通して起業・移住の支援を行っています。

開講から7年が経ち、これまでの受講者数は239人。そのうち53人の方が起業を実現されました。

今回は、その中でもスクール卒業後に市内で活躍されている3人の方を紹介します。

問い合わせ 神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ
篠山イノベーターズスクール事務局☎506-6628

篠山イノベーターズスクールの役割



篠山イノベーターズスクール卒業生

丹波篠山で ハミウリを栽培し、安定供給めざす

8期生 宮川三智子（みやがわみちこ）さん（住吉台）

10年前、夫の転勤で香港にいたときに食べていた、幻のメロンと呼ばれる中央アジア原産のハミウリ。そのシャリっとした食感とさわやかな甘さが忘れられず、日本に戻った約6年前からハミウリの栽培に取り組んできました。最初は、大山荘の里市民農園で畑を借りて行いましたが、栽培は難しく、試行錯誤を繰り返しながら3年目にしてようやく栽培に成功しました。そして、規模拡大をめざす中で、まずは、地域とのつながりをつくろうと、2022年5月に篠山イノベーターズスクールを受講しました。その後、地域の皆さんのお世話になり、耕作面積も増え、1反ほどを栽培できるようになりました。今年は、約100個のハミウリが収穫でき、販路も開拓して主に関西のスーパーを中心に卸しています。今後は、熟成前にひび割れしたハミウリを廃棄処分せずに、冷凍化して有効活用できればと考えています。また、生産量を5割ほど増やしたいとも考えています。そこで、協働で作っていただける方を募集しています。ぜひ、一緒に作りましょう。

問い合わせ　info@c-onetec.com

卵・乳製品・小麦 不使用のお菓子で 農家さんの思いを 伝える

8期生 河村知佳（かわむらちか）さん（黒田）

元々保育園で管理栄養士をしていて、子どもたちと農家さんをつなげる活動をしていましたが、自分が農業のことを知らないことに違和感を感じ、退職して伝手を頼りに農家さん巡りを始めました。そこで農家さんの思いやストーリーを知り、その魅力を伝えたいと思い起業を決めました。

今は、自分の経験を生かして、卵・乳製品・小麦のアレルギーに対応したクッキーやケーキを「shirahi（シラヒ）」というお店で作っています。きっかけは、保育園で出るおやつを食べられない子がいるのを見て、「みんなと一緒のおやつを食べてうれしい気持ちを感じてほしい」と思ったことから。また、お米や大豆製品などの特産品を使って商品開発ができないかなと考えたことも1つの理由です。

今後は、元々の思い「農家さんの思いを伝える」ことを実現するために、クッキー缶を通して、生産者の思いを伝えることや、畑とキッチンをつなげる食育活動などができたらいいなと考えています。気軽に手に取れるお菓子を通じて、農家さんの思いを広げる活動をめざしていきたいです。

「shirahi」Instagramはこちら

移住者だからこそ 気付いた 里山のよさを未来へ

2期生 河口英樹（かわぐちひでき）さん（波賀野）

人脈づくりのためと「ローカルで仕事をつくる」という言葉に惹かれ、スクールへ参加しました。現在は、同じく受講生だった方と法人を立ち上げ、「100年つづく里山モデル」をめざし活動しています。

この活動を始めたのは、里山を廃れさせたくないという思いがあったからです。市内には放置されている里山もありますが、移住してきた僕から見れば、美しい風景や自然がある里山は光って見えました。このまま放置され荒廃していくのはもったいないと思い、「ミチのムコウ」というプロジェクトで酒米づくりを始めました。酒米を作りお酒に仕立て、販売して山に還元することが里山の循環を表しています。また、都市部の方々にも参加していただき、関係人口の創出にも力を入れています。

今後も里山に関わる人が増えるよう、今年からは里山づくりのスクールを開講し、里山を循環させる仕組みづくりを受講生たちと考えています。果樹を植えて「食べられる森」にしていくなど、経済的、資源的にも回っていくような仕組みを作っていきたいです。

「ミチのムコウ」詳しくはこちら